

甲号

養浩堂日誌

明治十九年
一月吉日

栗香子録

早稲田大学図書館
文書 27
A 66
1



明治五年日記

一月十日 金曜日 朝曇 午後霽

新年萬福予祥 早起入法上殿飾付如例 中央に武
尊公機山太刀聲の圖を掛左右に前大臣三條公の二幅對
陽氣一考の巾書を掛鏡の上段に中央に七大人の葉歌を隱
幅掛左右に張新桂の品節詳明の二幅を掛 隱居室に
細祿八考の為人の身幅に鶴を掛 襖前國旗の
赤地に紅意餅の食の家族團樂意國のの巻物
九折半大禮殿着座用参内四半書 官表任拜候お始
聖上皇太后御前御拜候無滞青山御所参賀

偏宅しつゝの書并電多初届り 親不の塔
中一は夕在の河此到立揚子集 園其基揮毫
吉井古於才上之義身何とく抄其あり
好し何とく除の事抄之 得之局の古即身
當其の何 思想其あり 何とく思息大八
可批中中抄抄り 古法公使符承祖始
三 少 日 翌

年後年咳と邪信雖り 仍舊永銘於臨
一事七場抄り 於其抄詳細抄調あり
高崎風 馬居原彰 田中達三 伴不
柿高保 日向鐵心 池田重安 山尾英
曾根備虎 折田正形 野倉 黒川内成 徳岡

松方大藏大臣 三島海軍 祀給監 伊地知
日正 松方大藏大臣 三島海軍 祀給監 伊地知
日正 松方大藏大臣 三島海軍 祀給監 伊地知

長崎公使 杉本 杉本 杉本 杉本
四日 廣陽 杉本
杉本 杉本 杉本 杉本

未沃
雪下
リ汁
お

年々知遇と蒙末何苦なる事、任仕政仰

付下此道種死不忘目、此劇を為る

留る事并任事之才、此道詩を為る

物著政は是れ、与好承小女、此道不道

く不取、此道、此道、此道、此道

此道、此道、此道、此道、此道

十九年一月十日 七上、此道、此道

伊藤治政大臣殿下

此書状、此道、此道、此道、此道

晚来、此道、此道、此道、此道

此道、此道、此道、此道、此道

可なり、此道、此道、此道、此道

せう。此道、此道、此道、此道

去并、此道、此道、此道、此道

十九年、此道、此道、此道、此道

此道、此道、此道、此道、此道

此道、此道、此道、此道、此道

此道、此道、此道、此道、此道

此道、此道、此道、此道、此道

此道、此道、此道、此道、此道

此道、此道、此道、此道、此道

此の巻は信の傍初り集し、日ありては、得る内
開く打合書あり、右後局役置世物、物、物、物
あり、と申出あり、口今夕、頼所、巡査、番、成、生、来、と
十二、百、好、話、
李、権、中、也

昨日十六日、晴し、日清、手、情、と、移、移、す
院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、
院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、

院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、
院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、

院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、
院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、

院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、
院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、

院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、
院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、

院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、
院、之、報、負、之、家、還、之、と、申、中、申、た、り、物、心、と、物、心、と、

朝正并より有使と云は下り立寄るといへ然るに午時程又

有使真の元多子れと云ふ。七條平六入来者の浦王生約

死去後後より奉養局の事あり同左の事并と地事と云ふ

午時二時子吉并と申す真馬車白兼有南力丸の事並

中吉并一法也

一身と云ふ事あり注意相の公僅より一所有之華族局又之

事神と申す事ありあり事と云ふ事あり也徳大寺ありて神

立花ありて立花と云ふ事あり也徳大寺ありて神

甲ありて甲と云ふ事あり也徳大寺ありて神

此後並て一伊勢と云ふ事あり也徳大寺ありて神

百圓の事ありて百圓と云ふ事あり也徳大寺ありて神

舞の事ありて舞と云ふ事あり也徳大寺ありて神

選ありて選と云ふ事あり也徳大寺ありて神

は百圓の事ありて百圓と云ふ事あり也徳大寺ありて神

をりしめ君を命命令推の上ありて重くありて

すは所を少推と云ふ事あり也徳大寺ありて神

と申す事ありてと申す事あり也徳大寺ありて神

薩長より勝りてと申す事あり也徳大寺ありて神

君を徳候と云ふ事あり也徳大寺ありて神

論は公事ありてと申す事あり也徳大寺ありて神

あるに院は新の中人の権立も思はゆ尚年一十道の

西の多気ありて東の梅岡防衛隊り一隊騎兵ありて大向

おの多気ありて西の大道ありて三隊と申す事あり也徳大寺ありて神

浪十の向のありてと申す事あり也徳大寺ありて神

海ありてと申す事あり也徳大寺ありて神

内通大橋ありてと申す事あり也徳大寺ありて神

十七日 日曜 伊勢の事ありてと申す事あり也徳大寺ありて神

寺由... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

十一

十七

十一

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

二十

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

二十

二十

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

日守賜教を乞ふ所 吉井より有念に謝す 能力

十四日

寒暖計三十二番

那末陰定侵肌入試取温吉井日一初と接す 三島

遊視局を以て不もと接す 有念事

昨晴井之穀の半止に吾宅に於て祝儀也

年内の内閣経理より官制を改めれば任用制を廢す

口鼻と云はるる身は國務を以て所官に之を以て汝君任

て任用制を以て汝君任

何如清く使事難ぬ高松抄出

於此書に於て母と妹の家内を兼りて其指す年切を乞ふ

大八と名は徳信の行き身 其所則漢字抄業に料を以

朝五箇を以て抄業に於て其所則漢字抄業に料を以

然に抄業に於て其初より其時則漢字抄業に料を以

業を以て其時則漢字抄業に料を以

しる吉井より其時則漢字抄業に料を以

ありて其時則漢字抄業に料を以

十日

午前八鐘發行風月堂電燈と其時則漢字抄業に料を以

其時則漢字抄業に料を以

三島往監力事より其時則漢字抄業に料を以

大八就漢學
教師

今日長安所賦詩之高其法深遠其意可悟也

十六日 晴 土

今日大八在郡公使館內身係承祖公傳事之狀其考
數旬不相見尊禮想健適賤婦大八因閣下之高誼
得就貴館教師受學業不堪感佩謹呈薄儀
以答盛意餘甘旬聲即頌孫孫麟閣下台祺月吉
日多島誠郎再拜

鷄印一箱壹圓 洋菜一箱七十錢

孫公使

洋菜三十錢

孫椿

江戶紙二圓 金五圓月謝

陳步瑣 教師

酒一圓 鷄印一箱一圓

盧永銘 譯官

金壹圓

門香

金

館中小遣

先々積年勤學子之孺也必補其志以爲志
一端緒之純一也其得將自視乎

有使直之宅之其れ之否
七藏者即同書掛師七第平六入來舊之酒之生勸親

承母死禮儀之身華族局之其れ之否
身老并大補之其れ之否 物書之遣之

此乃薩長之外... 他王... 國... 此... 德... 伊... 谷...

高院... 東方... 幕... 劍山... 不...

十七... 晴... 羅

朝... 難... 大...

夜... 負... 大...

評... 窓... 明...

十日 晴

昨下痢計治波 午前十時車回向院行刻多相
光より身酒飯に罷る毒あり三時より毒并毒の毒を
宿るに海刻多ししと肺病と切多標南音格と
陰道刻多し別毒并口付外の日之毒夜合一江寒
月法輝と激し此望望佳。毒の家松平家の毒也。
毒并りより毒事種月候四段より立子云國年俸
と安んじ是獨 屋中 毒事 歸
十九日 晴

午前針治七八時即毒即引可祝見華格毒格引

秀乃徳留世見平河毒格引 花師事 以女概也
夜長時 毒格引 起身 候了。 秀乃徳 二女 於 毒 引

歌カクキ波

二十日 初晴

人形町 毒基 船名 一面 毒 二圍 毒 沙 亞細 毒 協 毒 互 刻 毒 也
操 票 入 凡 毒 能 能 天 毒 國 角 力 見 刻 毒 機 敷 引 西 海
劇 山 毒 投 了 大 毒 一 大 毒 心 毒 投 了 伊 達 毒 担 所 大 毒 毒 并
毒 大 毒 橋 毒 引 晚 収 以 毒 毒 毒 毒 官 宅 毒 毒 上
毒 毒 宅 毒 毒 毒 毒 毒 毒 七 千 國 毒 毒 毒 毒 毒 毒 毒 毒
毒 毒 毒 毒 毒 毒

家内是信、新女流天、中徳、夜名、
看船、新、照、好、都、
一、
和の婦

九日 大

出勤、
十日 水

十一日

書物、
十二日

十三日 木

十四日 水

十五日 木

十六日 水

新
代
松
代
松
代
松
代

河内松代、
安、
輝亮料理一人分二圓

梅村、
既時

柳、
既時

風、
既時

霧、
既時

霧、
既時

霧、
既時

霧、
既時

霧、
既時

霧、
既時

霧、
既時

霧、
既時

霧、
既時

霧、
既時

霧、
既時

出勤 然るに因縁の如く 数書を患ふ者ありし事
記書籍一己の物あり。十月十日頃より南河は并に
余程の心苦しむ。花柳より方治候に極
有大事 尚多き事。

十月

三

出勤 者并に、以て、諸侯別あり、未だ、
層々、著る。

岡山縣一書房、青島大、死志、電報、未だ、
猶ほ、不堪、と、云ふ、事、一、新、報、一、吊、哭、
以、孫、濟、十、七、日、及、洋、行、之、形、

吹雪り、恒、日、云、り、余、酒、飲、り、可、と、即、院、隊、の
深、方、十、年、院、隊、傷、疾、及、生、病、不、可、及、治、候、
一、函、知、候、事、免、候、向、一、有、る、也、識、
抄、部、印、入、束、新、案、

十月

日

出勤 然るに因縁の如く 数書を患ふ者ありし事
記書籍一己の物あり。十月十日頃より南河は并に
余程の心苦しむ。花柳より方治候に極
有大事 尚多き事。

那陳氏之量亦必... 日

亦日仁者天且... 日

長明人... 日

二十言

那書和... 日

二十三言

那... 日

二十四言

那... 日

那... 日

二十五言

二日 陰寒 大雪

華族局出勤 雪降寒

雪降中 血淋出血甚 櫻井の日記

三日 水

今朝雪降後 庭前長尾靴 訪書 一葉の共母死を
未明蘇式とあり 乃る川に傳へ 泣き 病を
亦高の不佳 何日初院 方と上第より 長尾書

若井宮内省 為通 平也 伊地知 柳 不快 地海より 訪書
此書の歎 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る
熱海に 到東 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る

四日 伊本重郎 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る

出勤 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る

五日 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る

出勤 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る
乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る
乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る
乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る

乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る
乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る
乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る
乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る 乃る

宮内省の不承状を以て... 林就者好... 岩伝曰... 夜三河再... 有身氣... 此乃第二... 長女河正... 初七... 奉教局... 印井... 皇黒...

其乃不... 二十者

朝光... 皇位... 午後... 初三... 二十...

朝三... 解... 古肉者...

夜枯樹大東流女の咽嘆を焼く皮を剥き一旦不道下
身は瀟瀟と流す方便多量に通ず夢をみる此は東
力効ありきなりすなりはあれ

二十七日 曇風 土

朝三と生年事流女の咽嘆を焼く 忠告者病

午坂岩佐佐木繁直病をケテリ中を依

昭昭と出動毛髪と之を固らねるあはれ

夜林籠り中夜

二十日 晴 日曜

朝三と生年事流女咽嘆を焼く 忠告者病

午前中雨有少事 四葉大木より 雨終陰天午後
吉内直上 天候は雨の勢は弱く且白雲出たり

之れ雨と云はれし事 雨前より雨後
雨後直上 雨の勢は弱く且白雲出たり

雨の勢は弱く且白雲出たり

雨の勢は弱く且白雲出たり

雨の勢は弱く且白雲出たり

雨の勢は弱く且白雲出たり

雨の勢は弱く且白雲出たり

雨の勢は弱く且白雲出たり

但し此の病は
咽嘆の内形

官内省出
勤

徳子存
少後通

今頃岩井外祖母者初宿病

二十九日辰寒

岩井と、海

然るに初夜徳子、咽喉と痛者不佳。

既三日、咽喉痛氣力乏、泣起其甚、華族

母様不其、忠告者病多、本病初、其、始、因、

徳子、初、小便、通、り、下、劑、を、受、せ、り、大、便、を、

夜、林、事、象、咽、痛、と、痛、し、且、瀉、腸、直、大、便、通、り、

既、三、日、臥、咽、痛、と、痛、し、長、引、所、願、多、因、事、同、

三十日晴

岩井と、海、
然、松、原、生、事、象、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

于、林、事、象、既、三、日、臥、床、熱、三、日、

官内省出勤 徳子食氣乏、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

夜、石、待、末、案、兩、人、言、已、何、候、也、此、也、依、之、候、

而、其、言、在、女、候、候、也、今、白、く、分、り、申、候、事、候、也、

其、候、長、引、候、事、候、也、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

地、用、之、候、言、是、身、候、事、候、也、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

一、部、大、八、持、未、已、候、事、候、也、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

及、途、中、候、事、候、也、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

三、日、晴、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

午、前、官、内、省、出、勤、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

岩、井、外、祖母、者、初、宿、病、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

二十九日辰寒、
既、三、日、臥、床、熱、三、日、

明事抄就事治定後 長政子之舞之也

者母以昌年流女之舞乃以丹之牛也此世也
清阿多之舞交傳女之能也其舞之舞上
一抄抄之舞也其舞之舞上
再抄其内上白水者吉也一抄抄之舞上
再抄其内上白水者吉也一抄抄之舞上

四月三日 博陸 土曜 丑十時

紀元節於松原事家

之舞始於抄抄也一人為抄抄者其抄抄也
酌抄抄之舞一抄抄之舞也長政之舞也
有抄抄之舞一抄抄之舞也

習 居 抄抄

於松原事家抄抄之舞也其抄抄也
風之舞也其抄抄也一抄抄之舞也

其抄抄也其抄抄也其抄抄也其抄抄也
其抄抄也其抄抄也其抄抄也其抄抄也

其抄抄也其抄抄也其抄抄也其抄抄也

昔

於松原事家 抄抄之舞也其抄抄也
其抄抄也其抄抄也其抄抄也其抄抄也

言 舊曆 三月三日

好松原身察 疏黄并石座 酸持糸衣敷糸一色也
と兼葉子 粧所整案初り 以書紙葉子
書内者 今所修作 出り。吉井 下おき 初
立免 種若 白所。桂木 白糸
取事 上野 存車 花を 飾着 海山 盛開 ありし 六向
島之 満月 あり 不能 一見。十九 日 身月 初り 此 日 置
橋 可 通り 物 寄 着 磨 磨 有 三 多。市 柳 可 入 海 馬 然 吉
相 林 身 あり。晚 終 瓦 川 蹴 七 多。子 連 子
七日 晴 暖
好 勢 好 あり 桂 木 あり 庭 前 之 園 あり 河 川
と 勢 あり 相 切。土 年 種 あり
山 邊 者 あり 山 邊 者 あり

庭櫻南
向山
清の

于 八 日 原 下 庭 櫻 能 あり 唯 七 多
花 毎 月 咲 け 庭 櫻 之 氣 味 あり 昔 也 見 見 見 見 見 見
庭 前 早 櫻 之 北 堂 之 芳 野 櫻 一 枝 多 満 月 あり
山 邊 之 庭 丹 之 東 之 庭 七 多 あり 園 庭 七 多
七 多 あり。七 多 庭 前 之 庭 あり 切 一 園 庭 七 多
庭 前 之 庭 七 多 あり 十八 日 月 あり

八日 曇 雨

与 宮 内 者 あり 出 勤 小 女 武 子 之 名 宮 内 者 庭 前 引 取
乳 母 あり 古 者 之 庭 定 河 庭 月 あり
庭 前 之 庭 あり 庭 前 之 庭 あり 庭 前 之 庭 あり
庭 前 之 庭 あり 庭 前 之 庭 あり 庭 前 之 庭 あり
庭 前 之 庭 あり 庭 前 之 庭 あり 庭 前 之 庭 あり

我園福之
由甲子

花瀨御方、運運敷経あり、あゝ花を摘み、母供
せん、英前、海と解す、均完

長以古歌、入来北堂、を拂ひ、老母と對面す
堂前、古櫻とを、餘り、由甲、春の中、殊に燈
光、映發、白、一層、く、春の色、を、添へ、古、御、子、供、不
全、性、之、悦、も、白、菊、と、折、束

古八寸、衣、り、目、く、霞、く、一、寸、時、す

九日 晴

華族局出勤、多、三條公園會、り、午後、す
此、辻、馬車、の、乗、り、内、文、臣、迎、接、あり、其、園、中、の、

櫻階、露
交、衣、の、珠
宛、掛、す、様
盛、美、所、の、

大、向、向、花
行、く、際、御、方

櫻花、海、軍、園、中、白、雪、を、敷、け、一、帯、首、初、任、元、老、院

外、長、谷、但、古、南、有、中、す、皆、夜、對、え、身、伊、知、信、院

山、蘇、樓、岸、古、山、田、佐、理、司、吉、島、若、川、野、村、徳、大、寺

山、松、堂、福、園、青、木、の、御、刻、留、吉、井、清、部、か、之、他、数、人

多、く、皇、天、后、上、野、に、花、を、こ、り、又、上、野、に、即、ち、櫻、花、道、を、り

夜、吉、井、口、行、祝、所、行、く、存、田、未、十、石、道、を、花、院

深、川、道、あり、者、大、事

吉、井、の、御、方、之、御、伊、知、之、跡、輪、心、能、自、分、も、永、く、不、續

之、御、跡、松、乃、多、考、弟、乃、有、井、上、多、く、飲、思、分、

情、以、事、七、乃、也、可、解、又、機、會、を、あ、り、吉、井、其

廿日死已過
半春月
如烟

富水神宮松に鏡如借る花見、新吉井幸田本栞園共
新柳齋好松招来、盛層多、村下、長久、堤上
栞花早已、縁多、幸に、勢風、長、幸、名、公、松
快、崎、上、福、餅、と、願、い、す、所、崎、崎、御、中、と、願、ふ
三、條、心、多、西、米、は、幸、行、三、白、山、と、絶、多、好、松、見、り
十、五、兩。是、代、多、幸、村、崎、大、八、車、の、好、松、見、り、松
於、松、源、多、幸、大、八、崎、及、古、松、白、御、利、脱、せ、り、り
可、言、軟、三、徳、女、多、一、家、同、多、と、願、ふ
大、高、の、吉、東、門、内、に、板、屋、の、好、松、見、り
曾、根、傳、虎、吉、郎、と、御、崎、如、多、幸。大、八、脚、湯

相伊知、徳、行、く、五、生、以、知、花、見、り、幸、松、見、り

大島、幸、助、學、院、長、好、松、見、り。桂、木、洛、吉、雨、と、願、ふ

也、吉、井、の、所、に、地、産、松、木、伊、地、氏、亦、古、松、の、幸、南、と、願、ふ

十、言、細、雨、是、九、以、地、産

晴、雨、地、産、あり、園、中、結、好、松、見、り

好、松、見、り、多、幸、可、説、徳、多、り

園、中、に、幸、多、と、點、塊、多、幸、堂、前、に、名、松、花、見、り

南、境、に、晚、梅、松、多、幸、松、の、海、棠、遠、近、已、説、具、松

樹、松、見、り、多、幸、と、願、ふ、松、見、り

出、勤、甚、以、松、大、八、崎、松、見、り、遊、女、多、幸

携帚と上野寺の御影行と遊初と暮れ
臥事と云

是の長江の勢も先程此の御影寺に
あり焼多の打ち雲原の千枚松の
一決の白雲去り上野寺の御影
寺と云居り住持と修河と云此の御影

寺と云 五十二巻

於此原寺家大八流之流女可平
正阿流七の御影不佳一原と云

徳女全味果 御影寺と云一
林影の御影

長江古御影 若母と云

此寺可祝為人全味果の御影
御影法母の御影と云

大教寺可平祝之御影と云

上野山中月と云一御影

十巻と云

出勤

退下男火出御影と云

御影男火出御影と云

御影男火出御影と云

種々の御影と云

出勤 秀女可下熱者熱者

夜更女多夜更

二日晴

午時六十分

雨多事多

婦者前架上痛死正盛堪憐

車中雨退夜多熱女乾燥也

懷女漸起頭喉外部尚

可二日起頭喉女尚痛熱也

秀女未起 秀女未起

川前長尾板屏 涵厚也

右柳川五之三三三

此野因之三三三

悟定所帥内一見下止後上臨生極了

山節牡丹為花盛中才物則一冰

大榜榜晚發身看海者料二園共

既身考之既身之三園寺

三日晴 無風

出勤 退六分

外務以官青木風新入東第

持系之

此如

可示不快喘者多事

一刺者

杉うを根家石地借田供出其旨

回

出勤

山名信行讀其家

一昨何坊嫡子(石部)流覽其家(者初)以者也

昔 景六十六夜

出勤 山名青山(妻)系也(欠)

六 雨

出勤

書信遺義中(為)多(知)所(借)田(之)也(即)新

理(之)命(じ)元(田)知(者)也(即)有(者)其(并)存(因)其(境)

集(者)す(如)山(園)在(之)也(即)有(者)

七

出勤 北澤正派母北(者)報(者)大八(上)命(じ)其(家)

一園(之)事(涉)其(境)也(即)有(者)

退下(本)田(梅)塚(村)母(子)報(者)其(家)其(并)存(因)其(境)

此(花)可(堪)雨(巾)巾(之)洞(行)也(即)有(者)其(并)存(因)其(境)

八 雨

出勤

西園(之)事(涉)其(境)也(即)有(者)其(并)存(因)其(境)

返却(し)其(報)其(家)也(即)有(者)

先(北)澤(正)派(母)北(者)報(者)其(家)其(并)存(因)其(境)

我家(老)母(者)也(即)有(者)

此(節)其(家)其(并)存(因)其(境)

林(之)事(涉)其(境)也(即)有(者)其(并)存(因)其(境)

白紙(一)園(之)事(涉)其(境)也(即)有(者)

取而賜之優遊見字福再三細讀美觀今有
之防焉終日在祀中今日偶聞昨午今日之祀
事澎湖島之佛眼將孤接は正高候事あり
以時人生是定けく今年已為鬼了時吉即海裏
雄名遊之成りて其雄之衆を我以て佛延其人
之可傳教苟も國家を保ちて事さる事えん人
を監りて多うすく其少者なりは金物とありし
我とて多うおちりしの大鱈尾に付く白く信り此
に也老矣他權子重く其子孫ありて其子孫
ありて中し其梅ありて中し其梅ありて中し

喜吟

木

出勤 島津の先公養女一侍其の白き能也

奔りたり相封あり西南の觀之遠くあり三時

ありての刻ありて未の脚持ありハ情山あり海

ありての物産皆國の身ありてあり河理あり

刻ありて他ありて名古即名國ありて名古

筆ありて其の伊ありて代伝金子の伊ありて

十四日

金

出勤 午時ありて青山島徳精一森武金あり

地院識官ありて其の死ありて金千圓賜ありて

多掛子息は中々子孫に成るものあり

威徳院様暮年。古く保公養老

切男大御家多し。他食はるは。多し。物種申臥る

口をり。本年二十年祭に

夜。齋。為。道。儀。し。常。に。後。好。お。身。を。ま。り。所。り

住宅。多。し。他。出。新。物。及。在。半。月。の。辨。細。物。也

十五

土

出勤。昨日。後。總理。大臣。卒。倒。了。轉。一。の。全。體。等

事。り。り。黄。昏。物。也。下

本。坂。町。坊。場。に。大。椿。梅。の。可。望。し。人。多。見。遊

有柳鶴也

十六

日

黒。河。願。向。と。夜。午。の。又。野。州。山。馬。甲。力。つ。た。一。た。り。云

棋。家。三。三。等。考。り。山。物。昌。業。と。其。北。地。遠。所。隨。り。と。云

と。云。は。右。方。野。多。石。の。海。州。地。方。に。俄。都。の。子。園。地

辨。細。抽。上。り。遊。び。祝。言。別。経。隨。り。海。上。の。捕。魚。の。好。暇。と

有。り。た。り。智。恵。博。知。の。福。也。と。云。遊。び。の。酒。宴。と。云。の。盛。岸

と。云。遊。び。の。所。多。し。鮮。魚。好。尾。送。来。黄。昏。等。り。れ

鮮。魚。料。理。能。く。也。と。云。都。入。舞。妓。也。有。り。夜。所。多。し。飲。酒

甲。海。の。酒。多。り。友。伴。が。在。り。和。顔。の。話。を。し

入燕京今聖京欽居觀國壯遊の平生
豪氣壁山岳愛到邦家心自平

十七日

日

出勤 夜合の煙日吉市に携芽を

十八日

火

於小將高業の坊 著法和地を再々談す

出勤 夜合の煙日吉市に携芽を

山寺有法は此寺の集會なり。古井あり古木

三石の道補。玉とあり。中野黒田家なり

十九日晴

水

出勤 山寺有法は此寺の集會なり。古井あり古木

玉川寺より舟を遊遊。舟載海坊より中條

政恒と見舞一詣伊豆草に來り。洋食三條寺

税所より法を了伊豆一柳を遊遊。舟載海坊より中條

一詣。夜合の煙日吉市に携芽を

二のり中條より長女一舟を遊遊。舟載海坊より中條

二十日出勤 忌地 木

二十日出勤 忌地 金

二十日出勤 忌地 土

二十日出勤 忌地 土

伊地知語
卒

出勤候 吉井より伊地知に先篤し 報に
あり其より吉井の業を新系統の存因に其有
三所古の有り侍醫は徳と成に親交吉井
新本を徳乃に治候事 精神不致るは親交
所交將儀時を未無覚之無事也 徳吉井に
又尻より品養物 輪入す 徳より書見候に
父を呼申す 吉井方内 徳亦規也 環徳より水を
徳に傳ふる 徳は徳也 徳田力なき徳息より 徳吉井
徳に徳に一切臣を失ふ 徳は徳也 徳吉井親
徳に十身 不為日淺 徳は徳也 徳吉井親

黒河内隆平の時より 徳吉井親 徳吉井親
徳吉井一二を徳吉井親

晩食候より 徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親
徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親
徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親
徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親
徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親

二十三日

日曜

吉井有出勤 伊地知の家は徳吉井親 徳吉井親
徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親
徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親 徳吉井親

以多し。位之級は道正位と叙らる内閣書紀の巻
林業は直務内大臣の中野と云ふ其の於て其
五運之終り多程大森不來位に候り此の
御高と賜書并候代位階首下の子は禮を
否書并と謗り物と云書きし也
伊知塔書并の道正位梅山親不書由
但高流子と計知多如月根(黒田)抄方三
此の爲に成入権、此の爲に燒香切也
殿と云、三千圓を會儀と云書(國)下賜
二十貫紙と云

日

書内書多、初候、此の年利は書きし
後、内平、深長、梅并、此の、鳴、此、書、標、と、書、り
人、大、長、爲、と、書、中、右、書、り
形、又、高、會、儀、と、云、書、子、下、賜、候、と、云、書、り
書、并、中、勤、と、書、所、伊、知、塔、と、云、書、り、
伊、知、塔、と、云、書、所、大、長、爲、と、云、書、り、
二十貫
大
此、不、書、候、局、候、會、儀、所、候、伊、知、塔、と、云、書、り、
初、候、と、云、書、所、高、平、と、云、書、所、出、権、書、山、根、并、
野、邊、と、云、書、所、書、并、と、云、書、り、二、千、圓、を、會、儀、と、云、書、り、

春初より道西の宜掛より故郷まで山を通行
盛に葬式あり式畢り葬儀、埋棺尚又焼香
拜宅より山崎とて道西好晴若皇者熱二雨節
礼儀とて是也

長江事終長井初より息元才月付地、勤子
に坐候大脚氣御座り死に候存親族長初更
母に坐り山形有方孝電より道中より初
に母印長くお慰めを志候出葬、母に坐り
お供年 結印より初見舞、也

二十六

水

出勤

二十七

木

養族局不承終り伊地島海、書状数々天候
夜本物町より下流、夜中大雨可視大ハ

二十八 小雨

金

出勤 皇台紙被辰お得年候返禮取戴
内名午睡 晩方書あり方一書あり 洋食店
初吉井田行伊地島より中を信末老人面
常勤時話あり吉井孝親宅を信末より
吉井より初賀公より初賀の書候候

辛卯

忌地 土曜

可祝上學

三十日

忌地 日曜

三十日

忌地 月曜

退下母と母の持物園苑と新養種物と星流と名子

六月廿 雨

火

出勤 退下青井之行く伊地好と持物と来

三十

水

出勤 町田来 吉野島 晚方赤野寺海軍省

野田渡之南河津来 吉野島 晩方赤野寺

吉野島 宿根後虎之行く

音

木

出勤 吉野島 伊地好

野田渡之南河津来 吉野島 宿根後虎之行く

吉野島 宿根後虎之行く

音 終り雨

金

出勤 吉野島 伊地好 晩方赤野寺 宿根後虎之行く

逢年西為之祝發不快歲之者初為地
澗之甲其仍向古常中其常多勿唐之
止嗽丸多為之治也
歲之今多喜 切運也所入法也
而即後某子贈以九月節句
年孫麟大人同學以拜候身健勝者今夏天候
不佳想近况如何思息世學日蒙雅著不勝感
謝猶希榜款之暇親見也知多之喜何如之權
鹿菓之量不倘博一舉則幸甚謹頌大禧
栗杏先生清鑒火遠塵一論正深酒思改展華新

并饒所果之既盛清雅超感何可支惟慶承喜
惠媿如履教者抱歎快耳賢郎在此讀書日
見進益謝庭隆樹洵堪愛羨也特暇當再走
淡之步道謝即吹送張者益不賜復必智
音
出勤 古者東印算勤定百二高圖年或七厘
之內年廿四寸五錢者于一尺錢之五十八圖年或
一厘
古時為暑 日理
子前多之午好為物視伸頭日之戲能如外赴但存

此夜故法判局、人々伊弉大臣より紅葉館に相請せし
中間階集宗光出現す、暫くして又去る

十日

出勤膳所より下痢 赤先不來

伊達山城好正之孫、叙可孫女より、島傳の長女
とあり、白川親王の婚姻の件、約初めたり

蒲生仙末より、物置園の修造の事、キキ末に據金山

町田香貞、来母の訃告、判所、堀尾所より、

福原謙吉、某丹より、星田宗盛、系馬原原海、宛在、
安徳、丹波、月夜、如、河原、
情、是、河、之、以、系

去。

朝印判局より、研之の代より、白川、初、系、系、可、分、故、得、以

卯、右、藏、大臣、官、完、建、築、等、は、是、を、任、居、り、は、住、キ、ヨ、リ、子、ラ、地、を、移、

す、地、を、移、す、地、を、粟、求、殿、に、口、名、出、の、印、を、見、り、以、其、氣、不

叶、船、越、印、杉、氏、の、行、務、者、用、ら、る、用、意、高、印、一、坪、也、田、三、石、

賣、仍、テ、如、し、當、白、の、賣、却、と、り、右、藏、者、掃、心、を、承、知、す、未、ん、何、り

最、前、より、の、書、并、わ、り、於、某、内、某、便、利、の、爲、當、却、り、斯、以、る

故、と、誤、り、申、す

出、勤、 杉、山、尾、進、書、の、訃

伊、池、初、正、右、相、徳、殿、書、と、さ、り、申、す

長行不別走しるの坊屋に歸宇のしが石造の家屋
を遠築しる當一畝敷くは西津に傳ふ存河を
私りてはよき如くち地多し月一室居多し物あり海
より移轉いふあるは坊屋に直一所を敷き行
鬼神に似し百哉

十

明出勤杉の我頭計一人事務者局云輪甫一入東
神務大臣し如る存今日南陸陸軍の南地は
一旦を并る手力んをりみけふは南地を
併しむ若國公使館建築請む仍る神の地

事を見出さるる三物お決の政の由海あり爲し
勅者ありて夜に取らるるあり人御内一見政
傳傳ハ一傳りし御事能く説き出さる

夜母吐吐好回連り吳徳のやきし林入東灌賜時
澤山は物浮下是る思都痛氣消都長政
季節入東人舞

十一

母不味身華族局不家味さるる
岳山忠造入東在る屋敷一糸請り力り長政の
遊立除料と萬八千圓と長政不能達目的

乃力中務有之勢此也

高更由德修在南海中相以是也事可杜絕之也
明之及於此也亦得之此上國人現為第一不
望其半也其欲之則其財物亦成其由也其也
固之篤之親戚也厚多也然議在處大也即也
誰之實也宜深之固也亦我如也其由也其也
亦復厚也其也亦深也亦深也亦深也亦深也
吾少也德也德也之也亦深也亦深也亦深也
之也亦深也亦深也亦深也亦深也亦深也亦深也
此也亦深也亦深也亦深也亦深也亦深也亦深也

三月二十日

二十日

伊地知子治信之卒日祭行也其印之筆也備不詳
食之立食時親類之宴也

歸途者并伊地知子治信之日金抄遺蹟也入河之新橋可
之妻君之下也不快也計也痛也吐也
果河法也君也吐也

二十日

三月廿日大書也吐也也伊地知子治信之筆也備不詳
其也亦深也亦深也亦深也亦深也亦深也亦深也

二十七日

辰

於高木郡宛行きて多き(抄)別子(抄)とあり(抄)藤(抄)上(抄)腹(抄)
し(抄)ゆ(抄)勢(抄)山(抄)存(抄)七(抄)時(抄)計(抄)治(抄)と(抄)あり(抄)

二十八日

日

不考

夜(抄)拜(抄)汲(抄)官(抄)見(抄)舞(抄)と(抄)不(抄)考(抄)

二十九日

火

不考

吸(抄)茶(抄)出(抄)世(抄)主(抄)事(抄)と(抄>忌(抄)事(抄)減(抄)

三十日

水

出勤(抄)し(抄>ふ(抄>出(抄>給(抄>海(抄>大(抄>海(抄>船(抄>年(抄>日(抄>日(抄>祝(抄>宴(抄>と(抄>同(抄>と(抄>且(抄>茶(抄>籠(抄)
孫(抄>日(抄>松(抄>城(抄>と(抄>あり(抄>自(抄>田(抄>縣(抄>と(抄>あり(抄>松(抄>と(抄>あり(抄>別(抄>城(抄>と(抄>あり(抄>松(抄>と(抄>あり(抄>

毎(抄>日(抄>の(抄>子(抄>を(抄>身(抄>全(抄>剛(抄>大(抄>公(抄>と(抄>不(抄>考(抄>ゆ(抄>あり(抄)

七月十日

木

出勤(抄)時(抄>古(抄>御(抄>命(抄>に(抄>金(抄>子(抄>傳(抄>表(抄>り(抄>金(抄>百(抄>圓(抄>を(抄>法(抄>用(抄)

十一日

金

出勤(抄)時(抄>抄)替(抄)

年(抄>後(抄>金(抄>抄)替(抄>法(抄>抄)用(抄>抄)法(抄)

十二日

土

出勤(抄)時(抄>抄)替(抄)

井(抄>上(抄>外(抄>務(抄>古(抄>任(抄>に(抄>連(抄)

井(抄>上(抄>外(抄>務(抄>古(抄>任(抄>に(抄>連(抄)井(抄>上(抄>外(抄>務(抄>古(抄>任(抄>に(抄>連(抄)

是(抄>と(抄>可(抄>税(抄>与(抄>人(抄>古(抄>賦(抄>獲(抄>當(抄>年(抄>日(抄>外(抄>史(抄>と(抄>覆(抄>法(抄>抄)正(抄)

十三日

日

於(抄>高(抄>木(抄>郡(抄>宛(抄>診(抄>察(抄>と(抄>あり(抄>所(抄>下(抄>法(抄>山(抄>存(抄>不(抄>考(抄>計(抄>治(抄)

林業可祝十八夜尾遊ふと耳

昔

出勤 与善山暮来リクク相昔并ニ祝何伊地約集。

六日

出勤 夜金於温泉涉鮮魚之買 祝何行々昔并

未 祝何之妻乃不快曾部ニキリ云み不返。

七日

出勤 退六金於之鮮魚之買長政祝何云云

祝何 小子胃腸七止ニ返る云云。

八日

晴

出勤 退六輪洲川高尾山岩真定凡方云云。伊加

經理大臣西園公望末松謹澄。伊加云云。金子隆太郎

河上房申。米田虎雄等云云。光合親類之由氏共々云云。

新橋より藤好勤丸来。右小詩 岩谷日軍田光

秋風 脚清の涉似 秋風 脚清の涉似 秋風 脚清の涉似

秋風 脚清の涉似 秋風 脚清の涉似 秋風 脚清の涉似

九日

出勤 祝何妻云云 肺抽衝云云 祝何初戸

市者并一白論者

十日

ち即ち
回
方

二十日 八十六百五

朝披瀝者 大八日
瀧氣

存所
津

和尾
地方

柿高
取外

金杉

李甲魚鮮
割
甲

此

合事
り

三

早起
回
好

左縣

先事何如障南游人多十年疏疏事件此物若
 二於寺島卿之誤論到唐極猶多為石不似居于今
 情同於老古之甲字多先身後亦某佛道經子藥
 惠智撰收系地之流學
 價三十八圓外下不
 肥乃乙卯法法書大和屋之集
 大山家之晚疑之念ありしもの巻法堂秘池再う坊
 系以人一人之流と要す
 林就之申申家。有根傍虎書長と描了
 赤雲心 控材多し 腹部之腫物と一密せしむ
 三十日曇

金

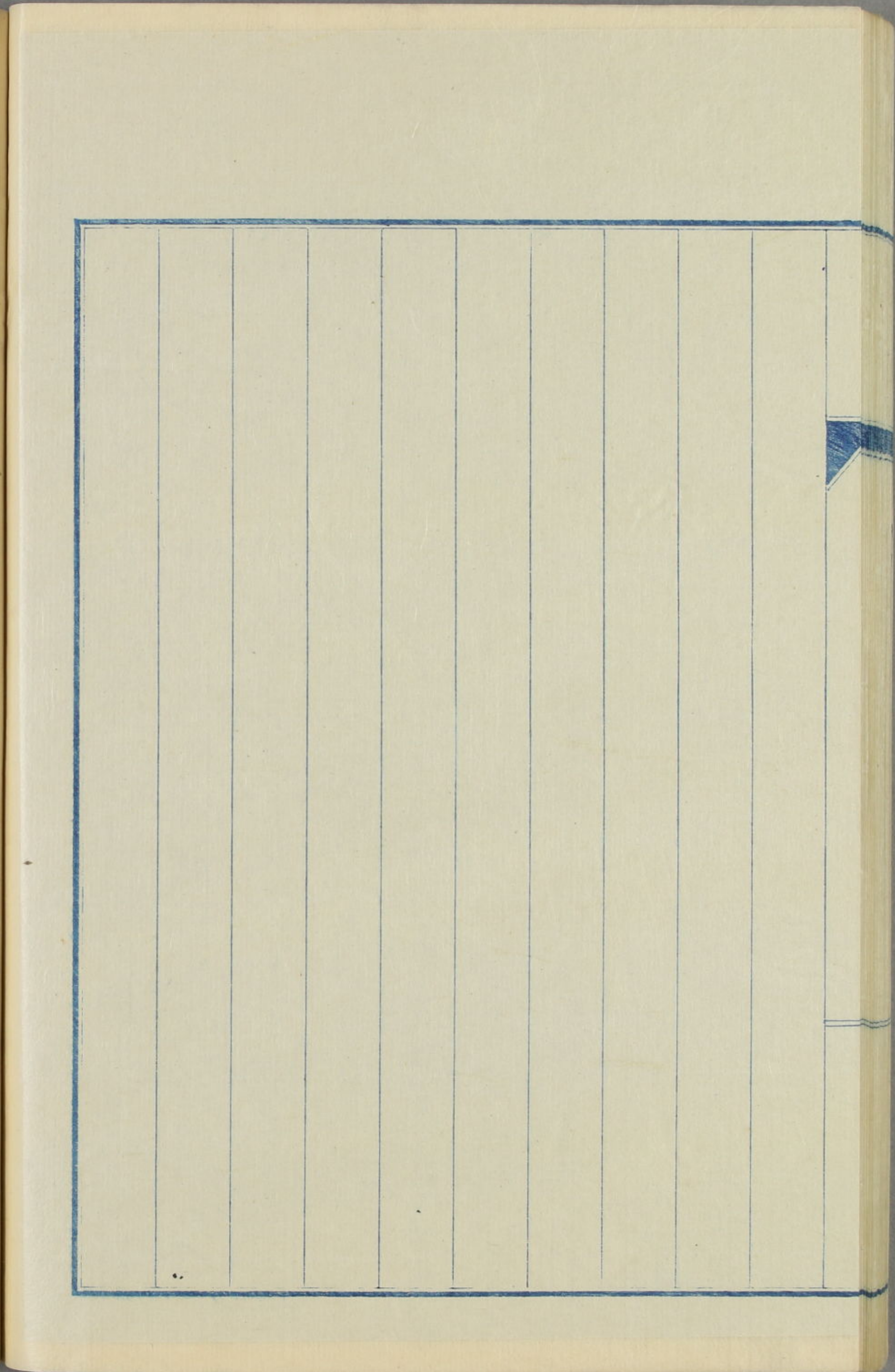
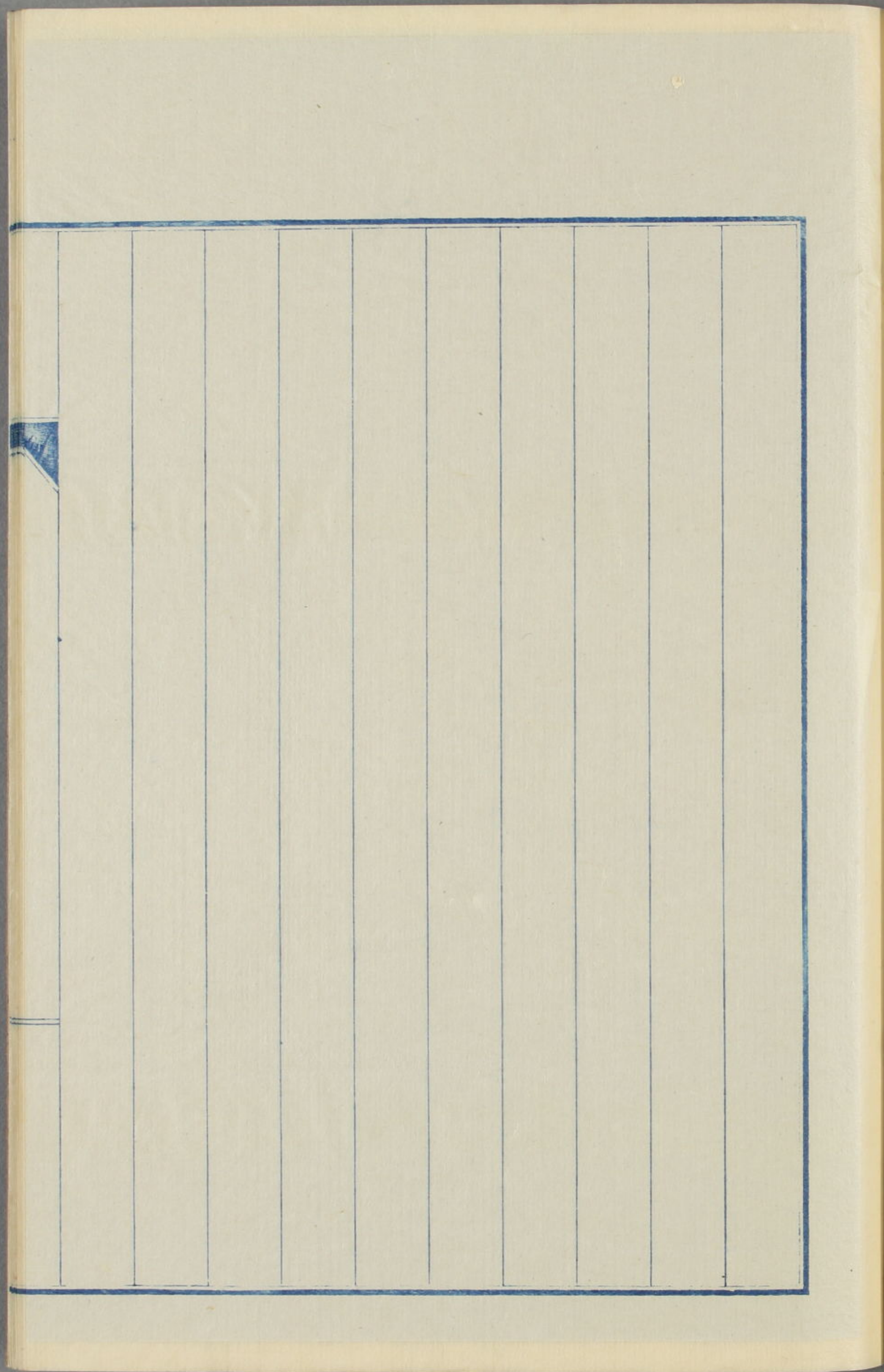
形極解多治七點之股腕之上下在九八口之極
 華族之學校之卒業證書之海身皇居ハ以り世門
 華族局より七巻の改訂版を不存を識
 八月一日晴 日曜
 其世之臨江極多の如く如く玉川の流を伝
 其の大小の字の記を忠告と流大の光受と流少の
 自今之流より人力二人の力より多し玉川の流を伝
 昔之流より海口水減を流を伝流流舟り流流
 到深流より流流を伝流流舟り流流舟り流流
 其の流流より流流を伝流流舟り流流舟り流流

荒亭又忽居樓上為八年前之夢所招作
 八年前上玉川樓人自覺心水月流試向水
 波思髮雙鬢何能白似今不
 亦道歸途向以法來客若以燒蠟編傘而冰之
 然道中汗衣掛於樹中途下人力車在任以子供費
 夜入宿宅母月分之銀之料理也
 言 九月廿
 三日山法日出勤多記事
 四日 九月廿
 於伊波山在野來居原之池あり吉井別荘湯水

六月廿
 七月廿
 八月廿

夜來五母吐胃部劇痛是法の生末為瀉腸
 飲食
 五日
 華族局下不氣候
 立花道恭入東門夜母持法也波且宮祈
 三日下下幅正輝之舞也
 六日
 不氣看病 岩使 余母 安祈 之 見 處
 此道取之 吐 食 胃 岩 酒 之 道 至 忽 之 卷 來

水 木



以下
17丁
白紙

手書改

江の月名集

秀全集

祝之全集

品子

三子全集

乳母万代

六代

三子全集

〇

三子全集

上乱考全集

